

## 令和元年度 水産試験場研究成果発表会のご案内

本発表会は、水産試験場が取り組んでいる調査研究や技術開発の成果を報告・発表することにより、本県水産業の振興・発展に寄与することを目的としています。

本年度は「第60回宮崎県青年・女性漁業者交流大会」に引き続いての開催となります。多くの方々のご来場をお待ちしています。

1. 日時：令和2年1月9日（木）14:30～16:00
2. 場所：宮崎県水産会館5階 大研修室（宮崎市港2丁目6番地）
3. 発表内容  
**【口頭発表】14:35～15:35 ※口頭発表者は、ポスター発表も行います。**

### （1）海洋レーダーの運用と航行安全への利用（資源部 渡慶次 力）

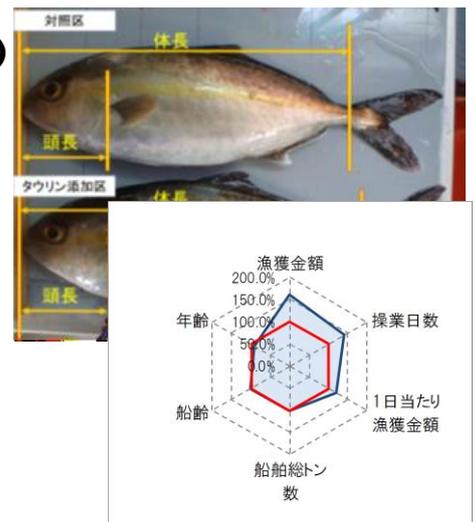
水産試験場では、令和元年から新たに「海洋レーダー」による流れと波高の情報提供を開始しました。特に波高の情報は出漁判断の材料だけでなく、船舶の航行安全への寄与も期待されます。海洋レーダーと航行安全への利用について紹介します。



### （2）タウリン添加による人工種苗カンパチの成長促進等効果

（増養殖部 大山 剛）

近年、価格の安い人工種苗を用いたカンパチ養殖が広まりつつありますが、天然と比較して出荷までの期間が長くなることや頭部が大きい体形になりやすいなどの欠点も指摘されています。このため、飼料添加物を利用した成長促進・体形改善効果を検討しましたので、ご紹介します。

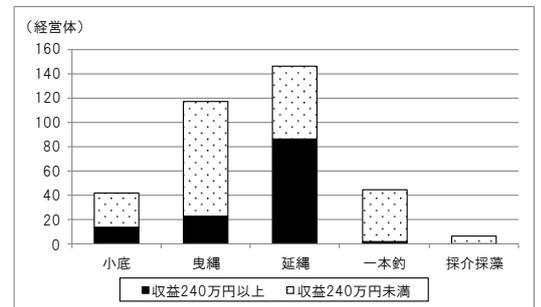


### （3）収益から見た本県沿岸漁業の概況

～新規就業者の確保に向けて～（経営流通部 西口 紀依）

本県漁業就業者は、平成30年漁業センサス概数値によると2,202人で、平成25年の2,677人と比較すると18%減少しています。今後さらなる減少が予想され、将来の漁村地域の経済活動の縮小

が懸念されることから、早急に沿岸漁業の担い手の育成・確保対策を講じていく必要があります。対策の基礎資料とするため、自営独立型漁業種類（小型底びき網、ひき縄、はえ縄、一本釣、採介採藻）を対象として、地域毎及び漁業種類毎に現状を分析し、新規就業時の操業計画モデルを作成しましたので、その内容を紹介します。



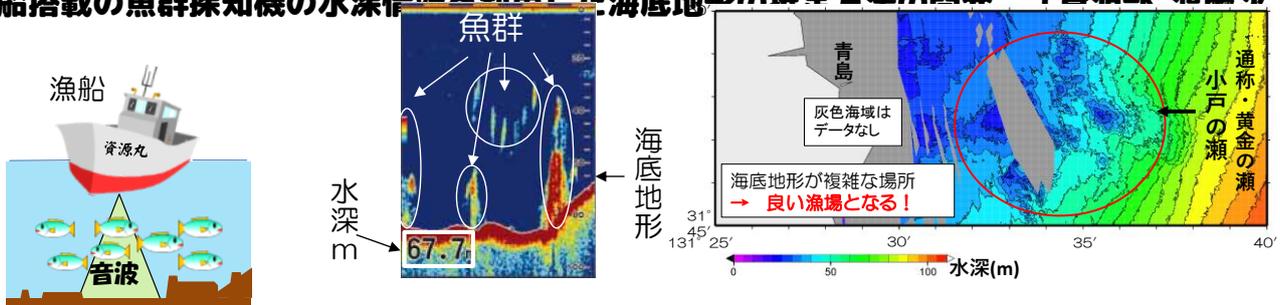
## (4) コチョウザメの種苗量産技術の確立 (内水面支場 上林 大介)

内水面支場では、平成16年に全国初となるシロチョウザメの完全養殖に成功しました。しかしながら、シロチョウザメは成熟まで8~10年を要します。そこで、キャビア生産までのサイクルが3~5年と短いコチョウザメについて、安定的に量産に量産できる状況まで確立しましたのでご紹介します。



## [ポスター発表] 15:35~16:00

### (1) 漁船搭載の魚群探知機の水深情報を利用した海底地形の推定手法の開発 (資生堂 清磨カ 力)



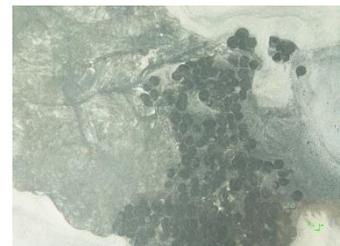
### (2) アカアマダイ種苗生産技術開発 (増養殖部 金丸 昌慎)



### (3)漁獲量の増加が予想される魚種の高度利用 (経営流通部 長野 昌子)



### (4)チョウザメにおける性転換の最適条件の探索 (内水面支場 中武 邦博)



#### 4. その他

事前申込み不要、どなたでも参加できます。